



生徒支援室だより (第5号)



1. 一年をふりかえって そしてつぎに進むために

虹の足

吉野 弘

雨があがって 雲間から

乾^{かんめん}麺^{めん}みたいに真^ま直^{ちよく}な陽^ひ射^ざしがたくさん地上に刺さり

行^{はる}手に榛^な名^{さん}山が見えたころ

山路を登るバスの中で見たのだ、虹の足を。

眼下に広がる田^{たん}圃^ぼの上に 虹がそっと足を下ろしたのを！

野^の面^{づら}にすらりと足を置いて 虹のアーチが軽やかに すっと空に立ったのを！

その虹の足の底に 小さな村といくつかの家が すっぽり抱かれて染められていたのだ。

それなのに

家から飛び出して虹の足にさわろうとする人影は見えない。

———おーい、君の家が虹の中にあるぞオ

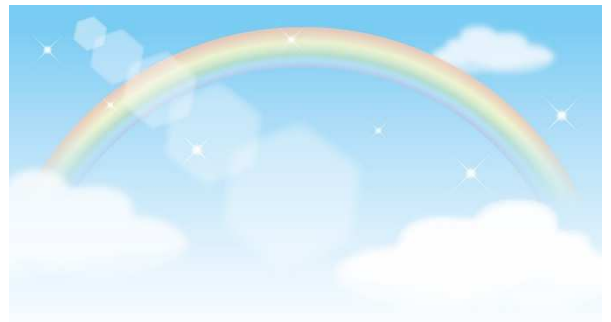
乗客たちは頬^ほを火照らせ 野面に立った虹の足に見とれた。

多分、あれはバスの中の僕らには見えて 村の人々には見えないのだ。

そんなこともあるのだろう

他人には見えて 自分には見えない幸福の中で

格別驚きもせず 幸福に生きていることが———



みなさんは日々、「自分は幸せだなあ」と感じながら生きていますか。私も含め、たいていの人は毎日そんなことを考えながら生きているわけではないのではないかと思います。

ところが、新型コロナウイルスによる昨年からのコロナ禍は、私たちのそれまでの生活を一変させました。そして、収束に至るのかどうかも今だに見えないままです。

当たり前だった日常が、当たり前でなくなって初めて知る「当たり前」の貴^{とうと}さ。そのようなことを突きつけられた一年だったように思います。

熱が出たりすると 気づくんだ 僕には体があるってこと

鼻が詰まったりすると わかるんだ 今まで呼吸をしていたこと

(BUMP OF CHICKEN『supernova』より)

何気ない日常の中で、私たちは「生きているということの当たり前」のありようを、とくに意識もせず生きているのだとはっとさせられます。自分がこれまで生きてきた、生きてこられたのは、節目節目に、まわりの人のさりげない思いやりや支えがあったからだ^らと感謝し、そして、自分自身もまた、誰かにとってのそういう存在であることができれば、と思います。



みなさんにとって、今年度はいかがでしたか?うまく進んだこともあれば、思うに任せないことが多くあったことでしょう。こんな1年にしたいという、自分の目標にあまり近づけなかったな、という思いのほうが大きいという人も少なくないかもしれません。また、目標に向かって心を傾け、力を尽くしたのになかなか進まなかったという人も…。しかし、「うまくいかなかった、目標としていたことに及ばなかった、= 負け(失敗)」ではありません。とくに昨今、「早く」「効率よく」進むこと(人も物事も)が良いとされがちですが、私たちが生きていく中では、けっしてそうとばかりはいえませんが、目標や夢までの道を「早く」「効率よく」進むことが大切なのではなく、「どのように」進むか、進もうとしたかにかこそ意味があると思います。

また、「うまくいかないとき、誰かが声をかけてくれた」「思うに任せないとき、そっとしておいてくれた」と、そんなときだからこそ、それまで気づけなかったことにはっと気づけることもあるでしょう。挫折や困難を前に立ち止まり、もがき、ときに遠回りしたりしながら進もうとする、そして、一人で生きてきたのではないことをちゃんとわかっている、そんな姿が^{とく}貴いのだと思います。

2. 春休み中も生徒支援室へどうぞ♪

3月24日から春休みです。春といえば、別れや旅立ちがあり、そして始まりの季節でもあります。4月から新たな気持ちで学校生活をスタートさせられるよう、体も心もリフレッシュさせて、じゅうぶんに充電してください。春休み中でも、相談したいことや、心配なことがあればいつでも生徒支援室へどうぞ。相談以外にも、話したいこと、気持ちがもやもやすることがあれば、気軽に来てくださいね。待っています。

教育相談の申し込み方法

ア、メールアドレスに「相談したい」とメールを送る(学年・クラス・氏名を忘れずに)。

相談メールアドレス : tako_soudan_ijime_nayami@yahoo.co.jp

イ、生徒支援室に来室する。

ウ、担任の先生や保健室の先生、図書館の先生、その他、頼みやすい先生を通じて申し込む。

来年度も引き続き、南紀若者サポートステーション、スクールカウンセラー、そしてスクールソーシャルワーカーの先生が来る予定になっています。予定はまだ決まっていますが、決まり次第、みなさんにお知らせします。

